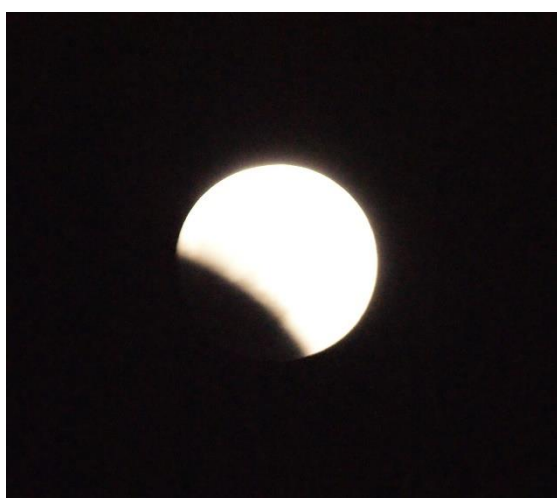


天文イベントのお話

みなさん、11/8の^{かいき}皆既月食はいかがでしたか。天気も良く、都内でも道ばたで空を見上げている人がたくさんいましたね。あん Do もティープロの近くで見たり写真をとったりしていました。地球の影が左側（東側）から月をかくしていき、皆既が終わった後は右側（西側）にぬけていく様子が良く見えましたね。



三脚が使えなかったのでだいぶブレてしまっていますが……

同時にあった天王星食は、残念ながら市ヶ谷では全く見えませんでした。

さて、月食や日食は肉眼でも観測しやすい天文イベントですが、他にもニュースになりやすいものとしては、^{すいせい}彗星や^{りゅうせいぐん}流星群などがあります。

理科でも学習しますが、彗星とは氷やチリでできた小さな天体で、太陽に近づくときにその表面が融けたり蒸発したりして吹き飛ばされ、長いしっぽを持つ星のように見える天体です。有名なものでは、およそ 76 年ごとに地球に近づくハレー彗星があります。近年、日本から肉眼ではっきりと見えるほどの大彗星はあまり観測されていませんが、2020 年のネオワイズ彗星 (C/2020 F3) や 2021 年のレナード彗星 (C/2021 A1) などがニュースになりました。インターネットには美しい写真が残っていますので、ぜひ見てみてください。

流星群は、流れ星が集中的に観測される現象です。彗星などの天体は、その軌道上に細かなチリを残していきます。そこを地球が通り抜ける時、チリの一部が地球の大気にぶつかり、流れ星になる現象です。^{てんきゅう}天球（空）のある一点（^{ほうしゃ}放射点）からまわりに向かって流れるように見えるため、放射点がある星座の名前をつけて「〇〇座流星群」と呼ばれるものが多いです。

流星群が活発になる（たくさん流れる）時間帯を^{きょくだい}極大といいますが、今年は 11/18 ごろにしし座流星群の極大、12/14 ごろにふたご座流星群の極大があります。しし座流星群は 1 時間に 3 個程度、との予想なので、都内で見るのはちょっと大変かもしれませんが、ふたご座流星群は 1 時間に 40 個ほど流れるという予想なので、都内でも空を見上げていればいくつかは見られるのではないのでしょうか。

流星群は毎年活動するものが多いので、皆既月食や彗星ほどめずらしくはありませんが、流れ星が光るのは一瞬なので、それを見るのはロマンがあります。みなさんも、ニュースをチェックしながら、天文イベントを狙ってみてはいかがでしょうか。

22/11/10 あん Do